

つかもと しげき

茂樹



profile

滋賀県議会議員 塚本茂樹
2009年11月～2015年3月 湖南市議会議員
2015年4月～ 滋賀県議会議員

塚本茂樹事務所

〒520-3234 滋賀県湖南市中央5丁目59
TEL.0748-76-4870 FAX.0748-76-4871
E-mail : info@tsukamoto-shigeki.net

塚本茂樹

検索

web:www.tsukamoto-shigeki.net

2

月24日、ロシア軍はウクライナへの軍事侵攻を開始しました。これらは、ウクライナの主権および領土の一体性を侵害するとともに国際法に違反する行為であり、断じて許容できるものではありません。また、その影響はヨーロッパにとどまるものではなく、アジアを含む国際秩序を揺るがす重大な事態であり看過できるものではありません。ロシアによるウクライナ侵攻に対し厳重に抗議し、ロシア軍が即時に完全かつ無条件で撤退するよう強く求めます。

私たちは、為政者の意地や執着が戦禍を招き市民を犠牲にすることを肝に銘じなければなりません。停戦合意が整い一日も早く収束し、平和が戻ることを祈ります。

令和4年4月 塚本しげき

令和4年2月定例会議 一般質問

新型コロナウイルス感染拡大前後の体調変化や生活習慣などについて、一般社団法人日本生活習慣病予防協会が昨年10月に全国調査を行いました。体調変化についての調査では、新型コロナウイルス感染拡大後、「目が疲れやすくなった」(28.8%)、次いで「体重が増えた」(27.5%)と答えた人が、およそ4人に1人と多くなっています。また、生活習慣についての調査では、新型コロナウイルス感染拡大後の生活習慣の変化について、63.0%が「変化した」と回答しています。生活習慣が変化したと答えた約6割の人に感染拡大後にできなくなった生活習慣を聞くと、「適度な運動」(35.1%)、「ストレスをためない」(29.3%)、「十分な睡眠」(21.2%)が上位に挙げられました。また、「甘いものを控える」(15.7%)、「食べ過ぎないようする」(12.1%)など食事の節制ができなくなり、食事のコントロールに悩む人もいるとの結果でした。

新型コロナウイルス感染拡大以降、新型コロナウイルス感染ではなく体調が悪化し、生活習慣病と診断された人が少なくないとの結果が出ています。コロナ禍が人々の健康を悪化させ、生活習慣病のリスクを高めている実態がわかります。

Q 本県におけるがん検診など健康診断の受診の現状について

A 健康医療福祉部長 【1】県内市町が実施いたします特定健康診査の受診率は、令和元年度の41.8%から令和2年度は35.5%となりまして、6.3%減少したところでございます。

【2】県内市町が実施いたしますがん検診の受診者数でございますが、令和元年度は191,520人から令和2年度は154,628人となりまして、19.3%減少したところでございます。

【3】緊急事態措置の適用中はこれら健診等の実施を縮小したこと、さらには外出控えや密を避けるなど、コロナ禍における県民の心理や行動変容の影響を受けたものと考えております。

Q がん検診など健康診断の受診向上に向けた取り組みについて

A 健康医療福祉部長 【1】特定健康診査の受診率向上に向けては、テレビCMの放送や大型店舗における館内放送などを活用いたしまして、コロナ禍にあっても県民の皆さんのがん検診を受診されるよう、積極的な呼びかけを行ったところでございます。

【2】がん検診の受診率向上に向けては、10月の「がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間」にあわせまして、ホームページやしらしがメール、LINE等を用いて検診受診の呼びかけを行ったところでございます。

【3】今年度は市町におきましても積極的な受診勧奨が行われ、適切な感染対策をとりながら健診等が実施されておりまして、受診者数は昨年度より増加するものと見込んでおります。

【4】県いたしましては、コロナ禍であるからこそ健診を受けていただき、自身の健康に目を向けていただきたいこと、さらには、がん検診を見送るうちに未発見のがんが進行することが懸念されますことから、今後とも継続的に健診等の受診を呼びかけてまいりたいと存じます。

Q 新型コロナウイルス感染の拡大が小中学生の体力低下に大きく影響していることについて

A 教育長 令和3年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果について、本県の体力合計点は、対象

なりました小学校5年生男女、中学校2年生男女すべてにおいて、前回の令和元年度に比べ低下したところでございます。

本県におきましては、特に小学校5年生の女子のスクリーンタイムが2時間以上であるという割合が、全国と比較して増加幅が大きくなっています。また、小学校5年生男子の総運動時間は令和元年度調査と比較し30分以上も減少しているところでございます。

議員からご紹介のありましたスポーツ庁の報告と同様に、本県におきましても感染リスクの軽減のため、体を動かす機会が減少し、また、学校生活、体育の授業や家庭での過ごし方が変化したことにより、低下したものと考えているところでございます。県教育委員会といしまして、新型コロナウイルスの感染拡大が子どもたちに様々な影響を与えていたことについて、大変危惧しているところでございます。

Q コロナの感染状況をふまえ、子供の体力向上策について

A 教育長 コロナ禍におきましては、学校の取り組みに加えまして、家庭におきましても、運動の大切さや習慣化を子どもたちに意識づけられるような工夫が大切であると考えております。

まず、学校におきましては、スポーツ庁が教職員向けに作成した動画資料などを参考にして、体育の授業をしっかりと続けていくことが、体力向上にとって大切であると考えております。

例えば、コロナ禍で多くの学校で実施ができるない水泳の授業におきましては、プール内外での距離の確保、水に入る人、入水者の制限また泳ぐ方向を一方通行にするなどにより、安全・安心な学習が可能となります。

さらに、やはり「わかった」・「できた」を体験でき、運動の楽しさを感じられる授業となるよう、小中学校におきまして、導入が進んだタブレット端末を効果的に活用していくことも必要であると考えております。

県教育委員会におきましては、保護者の皆様に知っていただるために、ホームページにおいて紹介しております動画サイト「体育の宿題」、「元気アップチャンネル」などの情報を、よりいっそう周知していくことによりまして、家庭と一緒に楽しく運動していくたくような取り組みを進めてまいりたいと考えております。

Q コロナの感染状況をふまえ、県民の運動不足解消に向けた取り組みについて

A 文化スポーツ部長 県では、これまでから、県民の皆さん誰もが運動・スポーツをする「見る」「みる」「支える」の各場面で親しむことができる環境や機会づくりに努めてきたところでございます。

特に、運動・スポーツに取り組むきっかけづくりとして、プロスポーツチームのホームゲームやスポーツイベント等を利用して体力測定や一人ひとりに合わせた運動プログラムの提供などの取り組みを進めてまいりました。

コロナ禍におきましては、自宅や身近な場所で安心・安全に運動・スポーツに気軽に取り組み、習慣化につなげることがでできるよう、BIWA-TEKUアプリも活用して県内各地でウォーキングイベントを開催するほか、ストレッチやダンスなどのオンラインの運動教室を開催しております。

また、「びわ湖レイクサイドマラソン」についても、コロナ禍の中でオンラインマラソンとして開催し、自由な時間に、自由な場所で、気軽に参加をいただいているところでございます。

さらに、スポーツ少年団や各種スポーツ大会の主催者に対しては、活動に必要なコロナ対策の経費を支援しております。県民の皆さんがコロナ禍の中でも安心・安全に運動・スポーツ活動に取り組むことができる環境づくりに努めているところでございます。



新型コロナ前(2019年頃)と現在の健康状態 n=3,000

現在	18.4	28.6	38.1	12.8
2019年頃	19.3	28.9	40.5	9.5

■よい ■まあよい ■ふつう ■あまりよくない ■よくない (%)

新型コロナ後の体調変化(複数回答) n=3,000

1 目が疲れやすくなった	28.8
2 体重が増えた	27.5
3 体がだるいことが多くなった	20.8
肩こりを感じる 悪化するようになった	19.3
夜中に目が覚めるようになった	17.1
腰痛を感じる 悪化するようになった	17.1

(%)

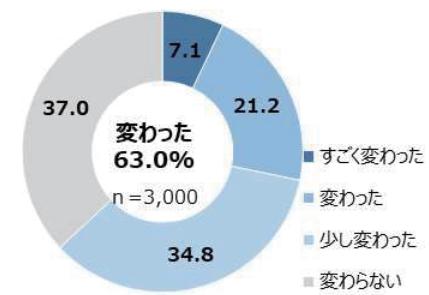
新型コロナ後に診断された病気(複数回答) n=3,000

1 高血圧症	6.4
2 脂質異常症(高コレステロール血症など)	5.5
3 腰痛症	4.1
肩こり症	3.5
うつ病・その他こころの病気	3.4
アレルギー性鼻炎	3.2
歯周病	3.1
糖尿病	3.0
肥満症	2.3

(%)

新型コロナ前(2019年頃)

新型コロナ後(2020年4月以降)の生活習慣の変化(全体)



新型コロナ前により「できなくなった」の生活習慣(n=1,891)

